

北急延伸に伴うバス路線見直しのための
アンケート調査
＜市民アンケート調査＞

単純集計結果

箕 面 市

目 次

I. 調査実施概要.....	5
II. 単純集計結果（中間速報）.....	9
1. 普段の外出について.....	9
2. 北大阪急行線延伸後の移動について.....	21
3. 現在のバスの満足度について.....	25
4. 路線バス（阪急バス）を再編することについて.....	27

I. 調査実施概要

1. 調査目的

北大阪急行線の延伸（平成32年度（2020年度）末開業目標）にあわせて、延伸線の新駅をはじめとする鉄道駅へのバスアクセスや東西方向等のバス移動の利便性向上を図ることを目的に、箕面市民を対象にアンケート調査を実施した。調査から得られた結果から、利用状況や意向等を把握するほか、今後の路線バス網の再編に向けた検討を進める上での基礎資料とする。

2. 調査設計

（1）調査の対象者

○箕面市在住の16歳以上（平成29年1月1日現在）の男女 5,000人

（2）調査対象者の抽出方法

○平成29年1月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

（3）調査方法および調査期間

○郵送配布・回収（お礼状兼督促1回あり）、無記名方式

○平成29年2月21日（火）～3月6日（月）

（4）調査項目

○問1：回答者属性（性別、年代、住所、職業、最寄りバス停までの距離）

○問2：普段の外出について（通勤・通学、業務上の移動、日常の買い物、娯楽、通院等）

○問3：北大阪急行線延伸後の移動について

○問4：現在の路線バスの満足度について

○問5：路線バス（阪急バス）を再編することについて

○問6：箕面市の公共交通をよくするためのアイデア（自由記述）

3. 調査票の回収結果

○配布件数 5,000件

○有効回答数（率） 2,858件（57.2%）

4. 集計結果のみかた

- 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。
- 2つ以上の選択肢を集約した場合（「満足」と「やや満足」を合計した『満足』など）は、該当選択肢の回答数から算出した割合の小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- 図表中の「N」は集計対象者数を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。
- 図表中の「不明・無回答」は、回答の判別が著しく困難であったもの、あるいは回答が示されていないなかったものである。

5. 回答者の属性

回答者の属性は、以下のとおりである。

(1) 性別

性別は、「女性」が57.2%、「男性」が42.4%となっている。

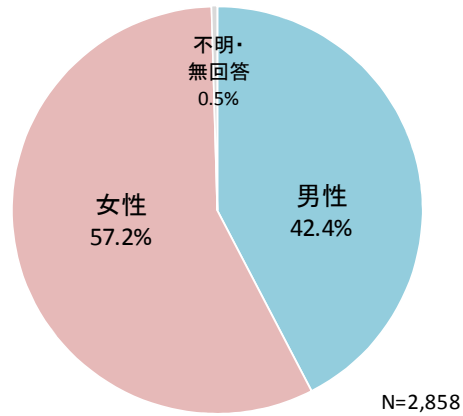


図 1 回答者の性別

(2) 年代

年代は、「60歳代」が18.4%で最も多く、以下、「40歳代」が17.8%、「70歳代」が17.0%と続いている。

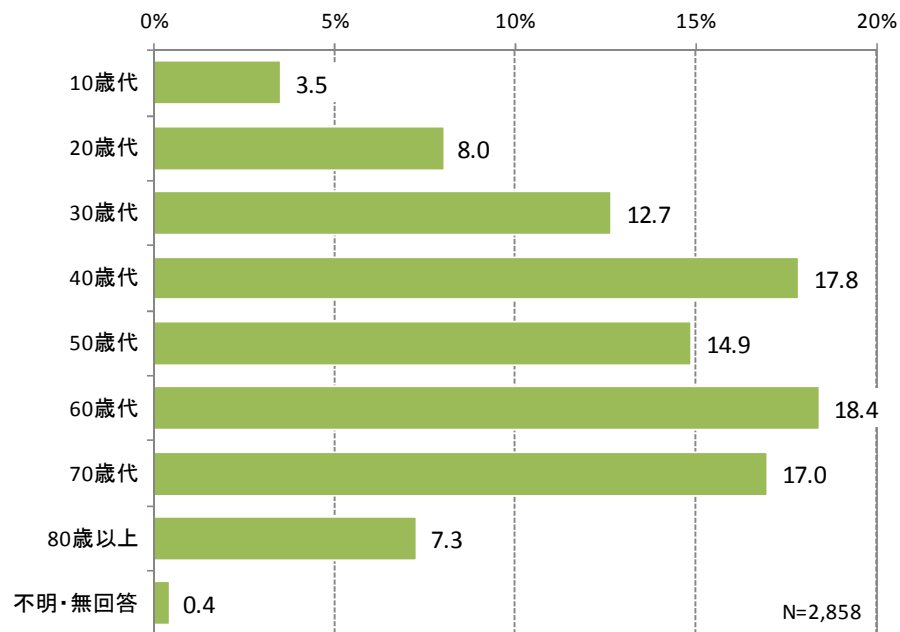


図 2 回答者の年代

(3) 職業

主な職業は、「会社員・公務員・団体職員」が30.0%で最も多く、以下、「専業主婦（夫）」が20.4%、「無職」が19.5%と続いている。

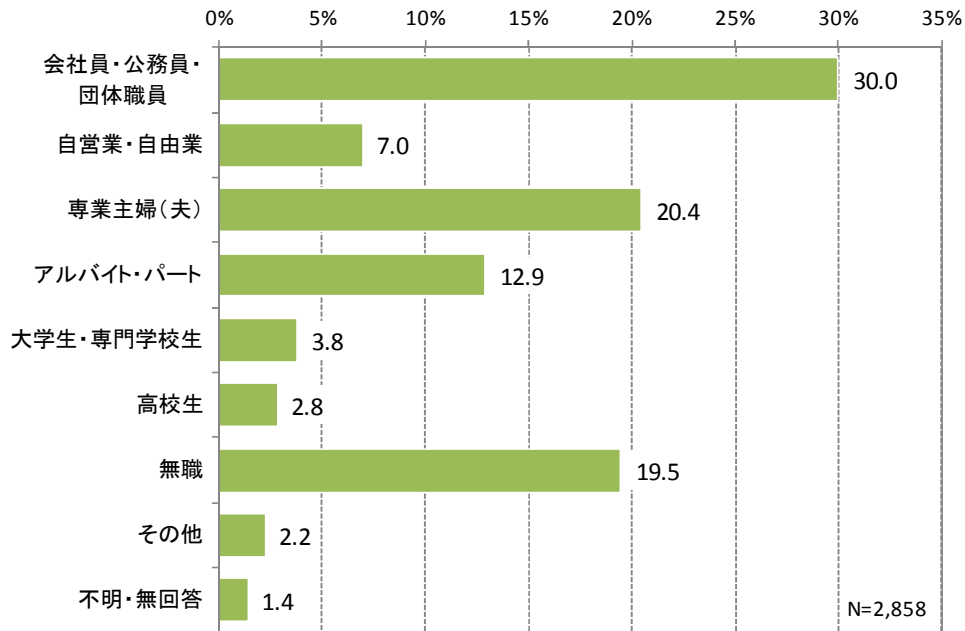


図 3 回答者の主な職業

(4) 自宅から最寄りの「バス停」までの距離

自宅から最寄りの「バス停」までの距離は、「徒歩5分以内（約400m以内）」が36.1%で最も多く、次いで、「徒歩3分以内（約250m以内）」が33.7%となっている。

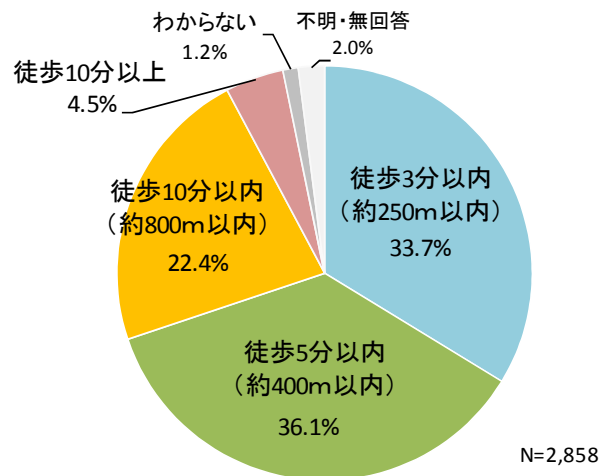


図 4 回答者の自宅から最寄りの「バス停」までの距離

Ⅱ. 単純集計結果

1. 普段の外出について

(1) 通勤・通学の状況について

※職業が「会社員・公務員・団体職員」、「自営業・自由業」、「アルバイト・パート」、「大学生・専門学校生」、「高校生」、「その他」の人のみ

問2(A)① 通勤・通学の有無

○通勤・通学の有無（※「専業主婦（夫）」、「無職」及び職業不明の人を除く）は、「通勤している」が77.5%、「通学している」が11.1%となっている。

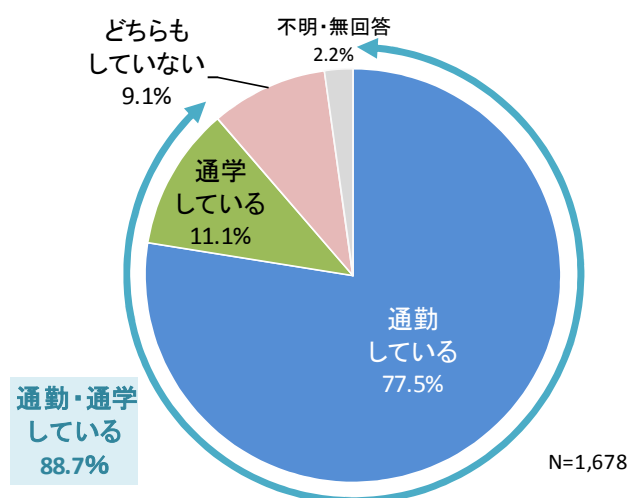


図5 通勤・通学の有無

副問 問2(A)①で「通勤している」または「通学している」と回答した人のみ

問2(A)② 行き先

○通勤・通学している人の通勤・通学先は、「その他（箕面市外）」が73.3%、「箕面市内」が24.3%となっている。

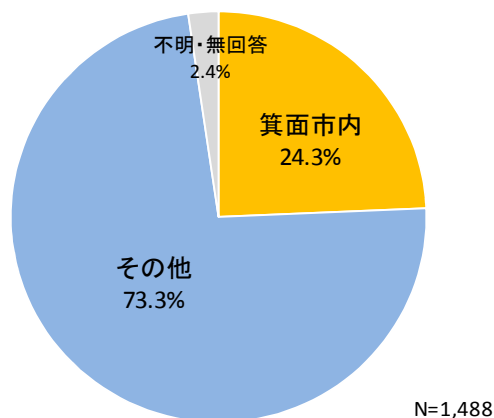


図6 通勤・通学の行き先

副問 問2 (A)①で「通勤している」または「通学している」と回答した人のみ
 問2 (A)③ 通勤・通学で利用する交通手段（いくつでも）

○通勤・通学している人が通勤・通学で利用する交通手段は、「阪急箕面線・宝塚線」が27.1%で最も多く、以下、「路線バス」が25.4%、「自家用車（自分で運転）」が23.8%、「自転車」が20.8%と続いている。

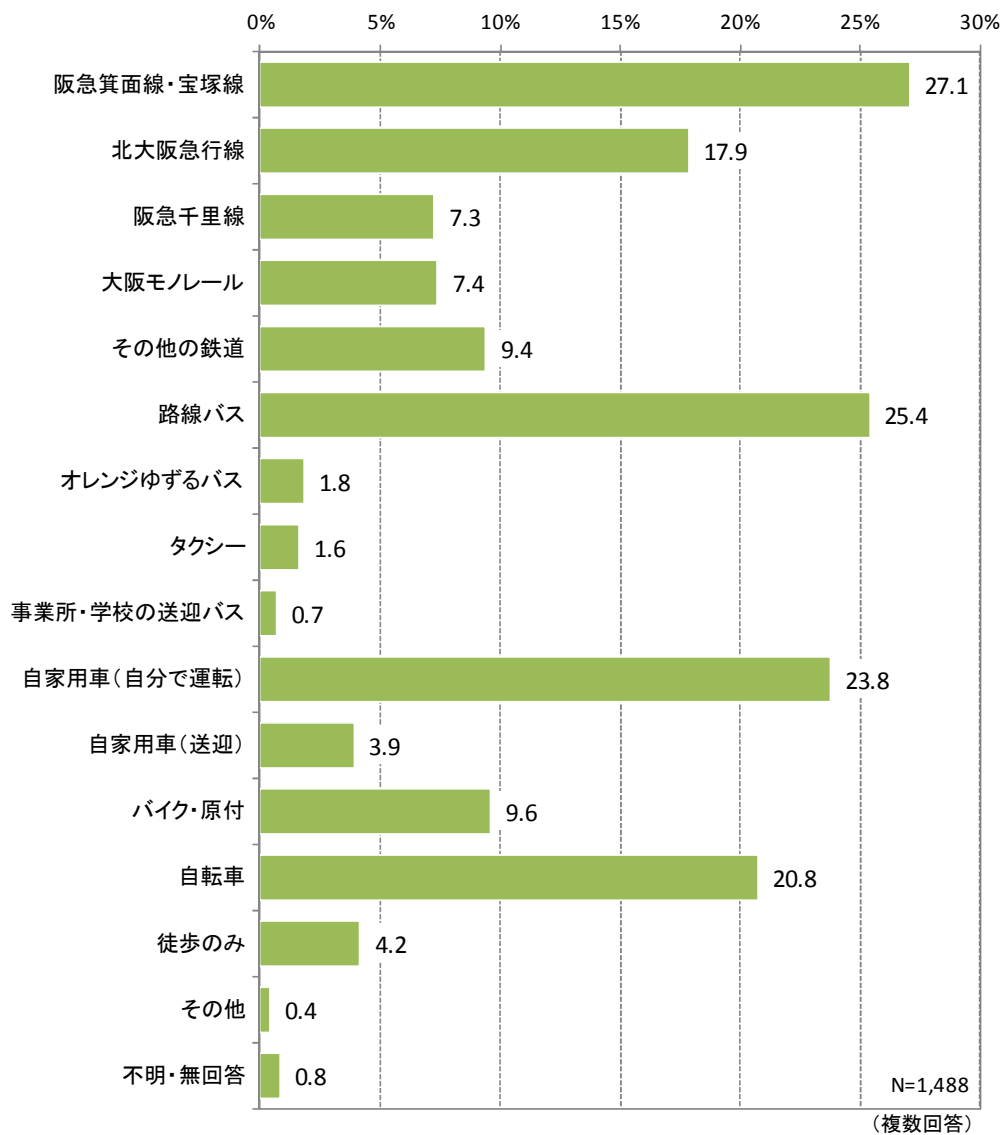


図7 通勤・通学で利用する交通手段

(2) 業務上の移動（営業等）の状況について

※職業が「会社員・公務員・団体職員」、「自営業・自由業」、「アルバイト・パート」、「その他」の人のみ

問2(B)① 業務における外出頻度

○業務における外出頻度（※「専業主婦（夫）」、「大学生・専門学校生」、「高校生」、「無職」及び職業不明の人を除く）は、「ほとんど外出しない（ほぼ勤務先での業務のみ）」が37.4%で最も多くなっている。

○外出する人の頻度は、「ほぼ毎日（週5日を含む）」が32.0%で最も多く、次いで、「週に数回」が14.6%となっている。

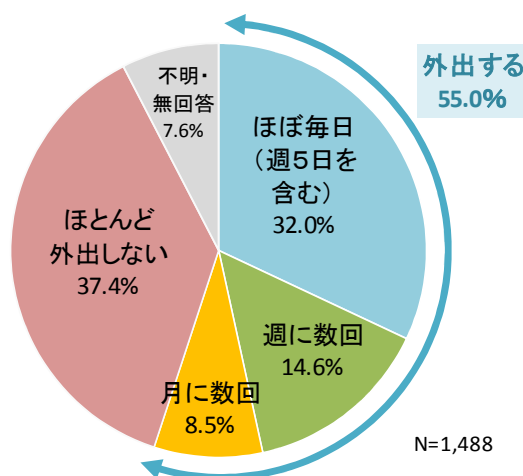


図8 業務における外出頻度

副問 問2(B)①で「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」と回答した人のみ
問2(B)② よく行く用務先

○業務で外出する人がよく行く用務先は、「その他（箕面市外）」が68.4%、「箕面市内」が21.9%となっている。

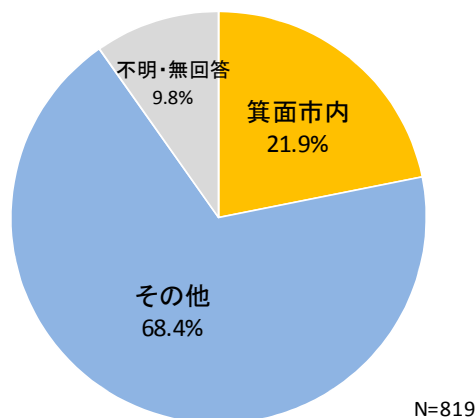


図9 業務でよく行く用務先

副問 問2 (B)①で「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」と回答した人のみ
 問2 (B)③ 業務における外出で利用する交通手段（いくつでも）

○業務における外出で利用する交通手段は、「自家用車」が31.5%で最も多く、以下、「北大阪急行線」が21.5%、「阪急箕面線・宝塚線」が20.1%、「路線バス」が20.0%と続いている。

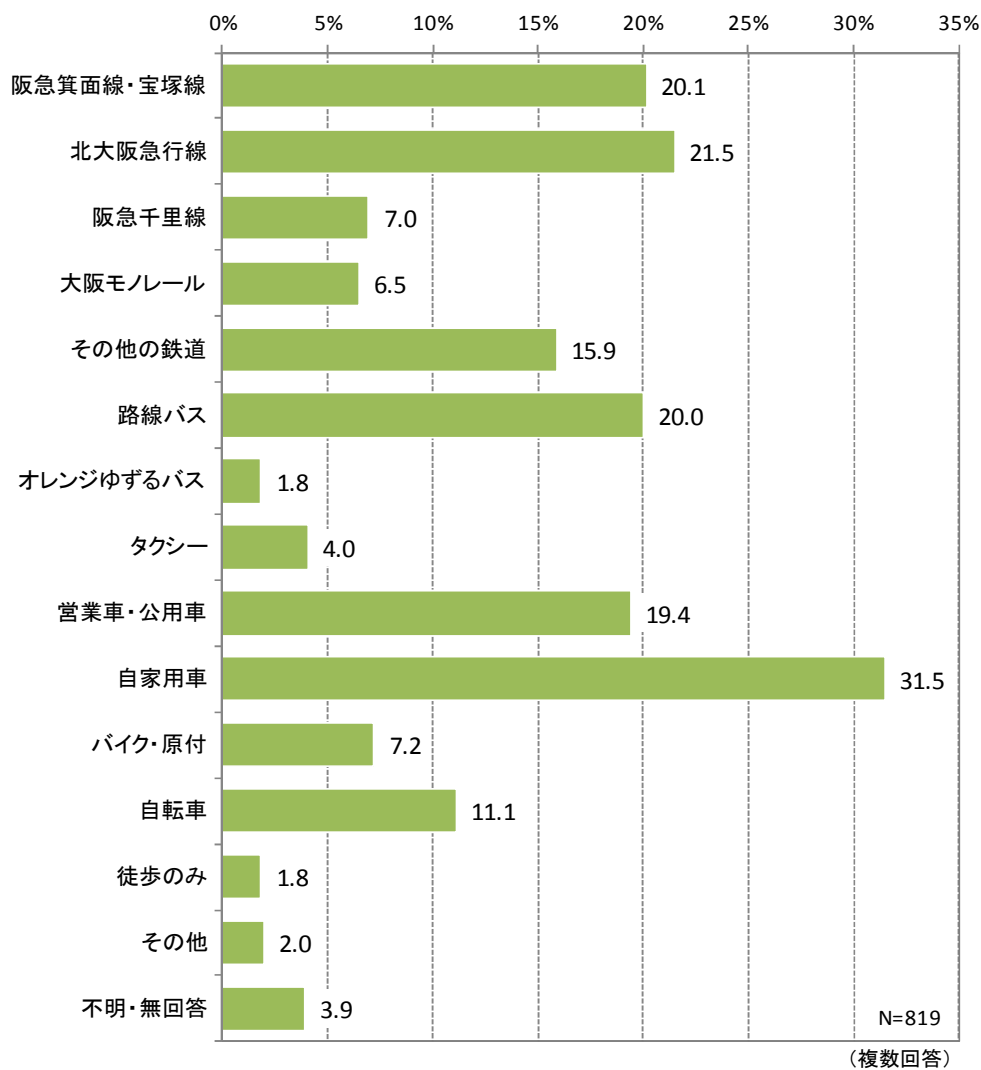


図 10 業務における外出で利用する交通手段

(3) 日常の買い物（食料品等）の状況について

問 2 (C) ① 買い物の頻度

○日常の買い物の頻度は、「週に数回」が52.7%で最も多く、次いで、「ほぼ毎日」が19.6%となっている。

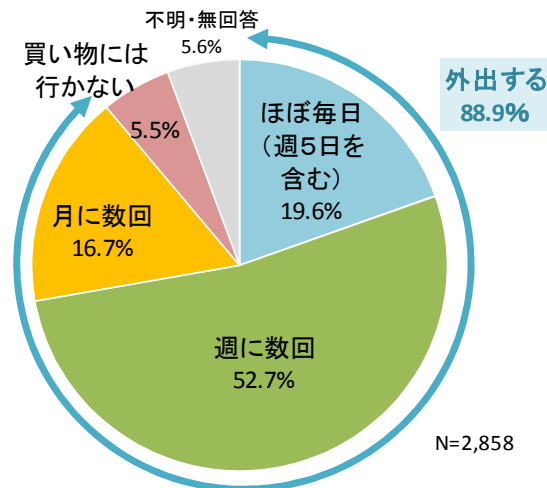


図 11 買い物の頻度

副問 問 2 (C) ①で「ほぼ毎日」, 「週に数回」, 「月に数回」と回答した人のみ
問 2 (C) ② よく行く買い物先名 (具体名を1つ)

○日常の買い物時によく行く買い物先 (図 27) は、「箕面市内」が66.2%、「その他 (箕面市外)」が15.0%となっている。

○具体的な買い物先名 (表 1) では、「イオン箕面店 (箕面市内)」、「ライフ箕面店 (箕面市内)」、「いかり箕面店 (箕面市内)」、「KOHYO箕面店 (箕面市内)」、「マルヤス箕面店 (箕面市内)」の順に多くなっている。

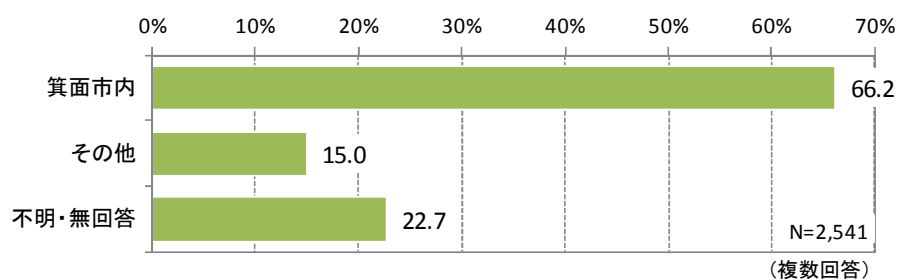


図 27 買い物時によく行く買い物先 (市内市外別)

表 1 買い物時によく行く買い物先名（のべ件数 10 件以上）

よく行く買い物先名	ゾーン	のべ件数
イオン 箕面店	箕面市内	432
ライフ 箕面店	箕面市内	269
いかり 箕面店	箕面市内	160
KOHYO 箕面店	箕面市内	111
マルヤス 箕面店	箕面市内	109
阪急オアシス 箕面店	箕面市内	97
阪急オアシス 箕面船場店	箕面市内	96
コノミヤ 箕面店	箕面市内	96
みのおキューズモール	箕面市内	64
千里阪急	市外	61
ダイエー 桜井駅前店	箕面市内	57
KOHYO 小野原店	箕面市内	53
食品館アプロ 箕面店	箕面市内	49
関西スーパー 小野原店	箕面市内	36
MaxValu 箕面外院店	箕面市内	32
フレンドマート 彩都店	市外	30
ピーコック 箕面桜ヶ丘店	箕面市内	28
MaxValu 豊中緑丘店	市外	27
コープ 箕面	箕面市内	27
イオン 北千里店	市外	25
ピーコック 千里中央店	市外	24
スーパー北乃屋 箕面店	箕面市内	23
ららぽーと EXPOCITY	市外	22
ピーコック 箕面外院店	箕面市内	17
コープ 箕面中央	箕面市内	17
業務スーパー 箕面店	箕面市内	16
MEGA ドン・キホーテ 箕面店	箕面市内	15
イオンモール伊丹	市外	13
阪急オアシス ときわ台店	市外	12
スーパーフレスコ 桜井店	箕面市内	12
阪急うめだ本店	市外	11
サンディ 箕面小野原店	箕面市内	11
業務スーパー 坊島店	箕面市内	11
ダイエー 千里中央店	市外	10

副問 問2(C)①で「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」と回答した人のみ
 問2(C)③ 買い物時に利用する交通手段（いくつでも）

○日常の買い物時に利用する交通手段は、「自家用車（自分で運転）」が46.8%で最も多く、以下、「自転車」が28.6%、「路線バス」が15.7%と続いている。

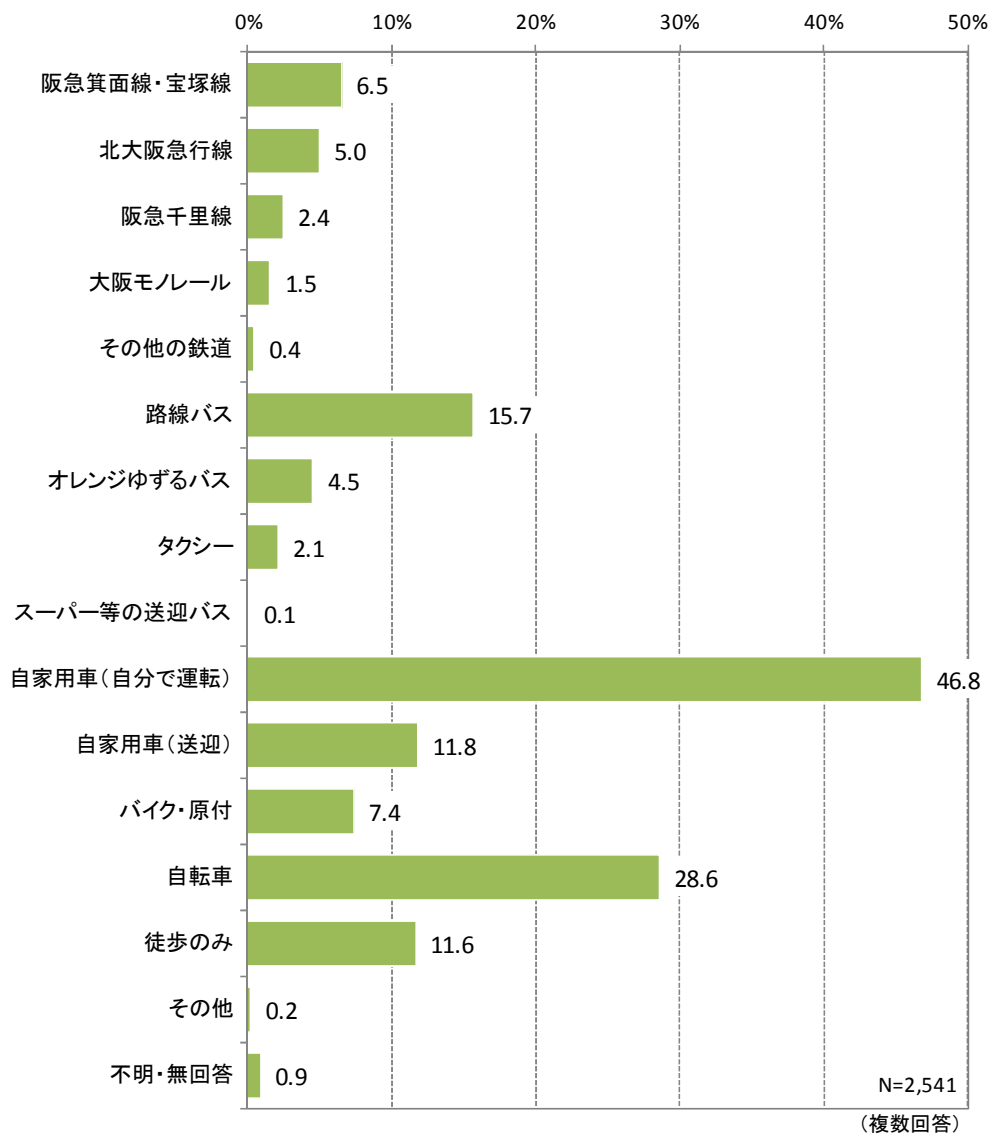


図 12 買い物時に利用する交通手段

(4) 娯楽・外食・ショッピング等の状況について

問 2 (D) ① 外出頻度

○娯楽・外食・ショッピング等での外出頻度は、「月に数回」が41.7%で最も多く、次いで、「週に数回」が32.9%となっている。

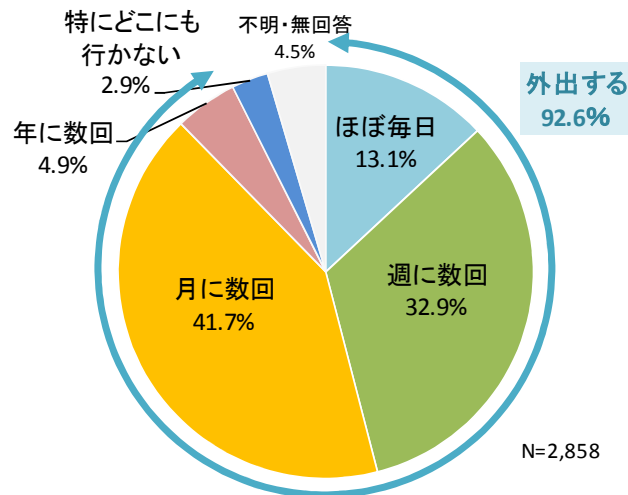


図 13 娯楽・外食・ショッピング等での外出頻度

副問 問 2 (D) ①で「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」、「年に数回」と回答した人のみ
問 2 (D) ② よく行く外出先

○娯楽・外食・ショッピング等でよく行く外出先は、「その他（箕面市外）」が47.0%、「箕面市内」が42.0%となっている。

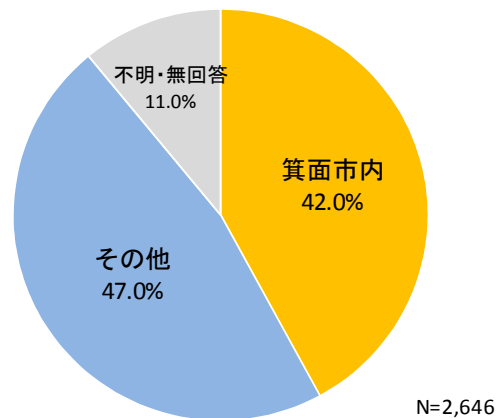


図 14 娯楽・外食・ショッピング等でよく行く外出先

副問 問2 (D)①で「ほぼ毎日」,「週に数回」,「月に数回」,「年に数回」と回答した人のみ
 問2 (D)③ その場所に行くために利用する交通手段 (いくつでも)

○娯楽・外食・ショッピング等の時に利用する交通手段は、「自家用車 (自分で運転)」が36.8%で最も多く、以下、「路線バス」が26.6%、「自家用車 (送迎)」が27.0%、「阪急箕面線・宝塚線」が26.1%と続いている。

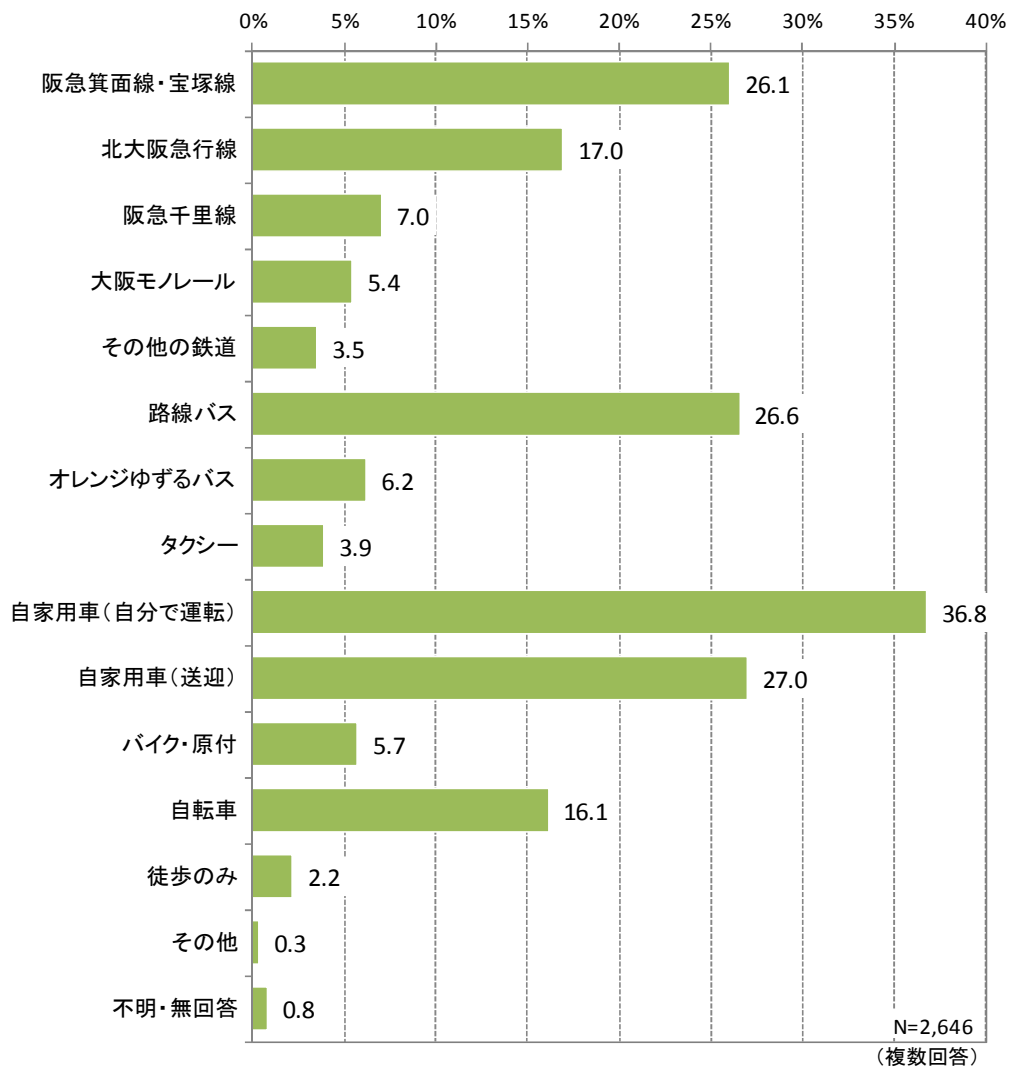


図 15 娯楽・外食・ショッピング等の時に利用する交通手段

(5) 通院・その他の状況について

問 2 (E) ① 外出頻度

- 通院・その他での頻度は、「通院等はしていない」が33.9%で最も多くなっている。
- 通院・その他で外出する人の頻度は、「月に数回」が25.8%で最も多く、次いで、「年に数回」が18.4%となっている。

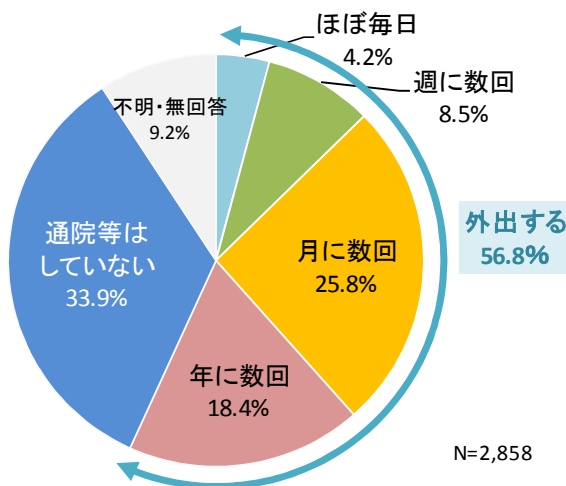


図 16 通院・その他での外出頻度

副問 問 2 (E) ①で「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」、「年に数回」と回答した人のみ
問 2 (E) ② よく行く外出先名 (具体名を1つ)

- 通院・その他の時によく行く外出先 (図 42) は、「箕面市内」が44.4%、「その他 (箕面市外)」が25.4%となっている。
- 具体的な外出先名 (表 2) では、「箕面市立病院 (箕面市内)」、「大阪大学医学部附属病院 (市外)」、「国立循環器病研究センター (市外)」、「市立豊中病院 (市外)」、「ガラシア病院 (箕面市内)」、「箕面レディースクリニック (箕面市内)」の順に多くなっている。

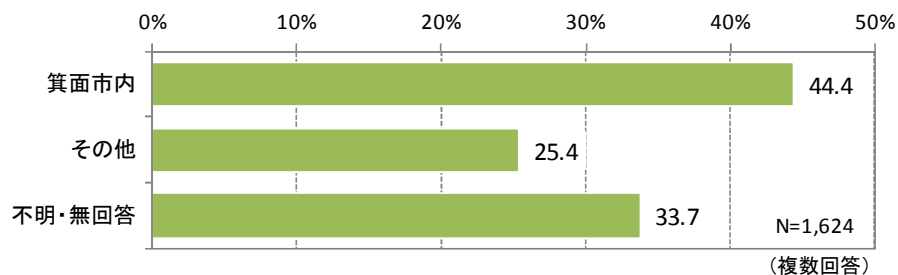


図 42 通院・その他の時によく行く外出先 (市内市外別)

表 2 通院・その他の時によく行く外出先名（のべ件数6件以上）

よく行く外出先	ゾーン	のべ件数
箕面市立病院	箕面市内	211
大阪大学医学部附属病院	市外	50
国立循環器病研究センター	市外	31
市立豊中病院	市外	28
ガラシア病院	箕面市内	19
箕面レディースクリニック	箕面市内	18
にいみ医院	箕面市内	16
相原病院	箕面市内	15
太田クリニック	箕面市内	15
さかもと医院	箕面市内	12
箕面の森整形外科クリニック	箕面市内	12
三木整形外科内科	箕面市内	11
船場西ばばクリニック	箕面市内	11
くさかクリニック	箕面市内	10
上林整形外科クリニック	箕面市内	10
田中内科医院	箕面市内	10
箕面レディースクリニック分院小児科	箕面市内	10
彩都友誼会病院	市外	10
荒木医院	箕面市内	9
箕面正井病院	箕面市内	9
大阪大学歯学部附属病院	市外	9
稲ふれあいセンター（多世代交流センター）	箕面市内	8
耳鼻咽喉科宮崎クリニック	箕面市内	8
石井整形外科	箕面市内	8
村田医院	箕面市内	8
北千里医療ビル	市外	8
是成外科胃腸科クリニック	箕面市内	7
石田クリニック	箕面市内	7
すみかわ整形外科	箕面市内	6
みのおキューズモール	箕面市内	6
よしだ歯科	箕面市内	6
印どうメディカルクリニック	箕面市内	6
前田内科クリニック	箕面市内	6

副問 問2 (E)①で「ほぼ毎日」,「週に数回」,「月に数回」,「年に数回」と回答した人のみ
 問2 (E)③ その場所に行くために利用する交通手段 (いくつでも)

○通院・その他の時に利用する交通手段は、「自家用車 (自分で運転)」が38.9%で最も多く、
 以下、「路線バス」が19.8%、「自転車」が17.4%と続いている。

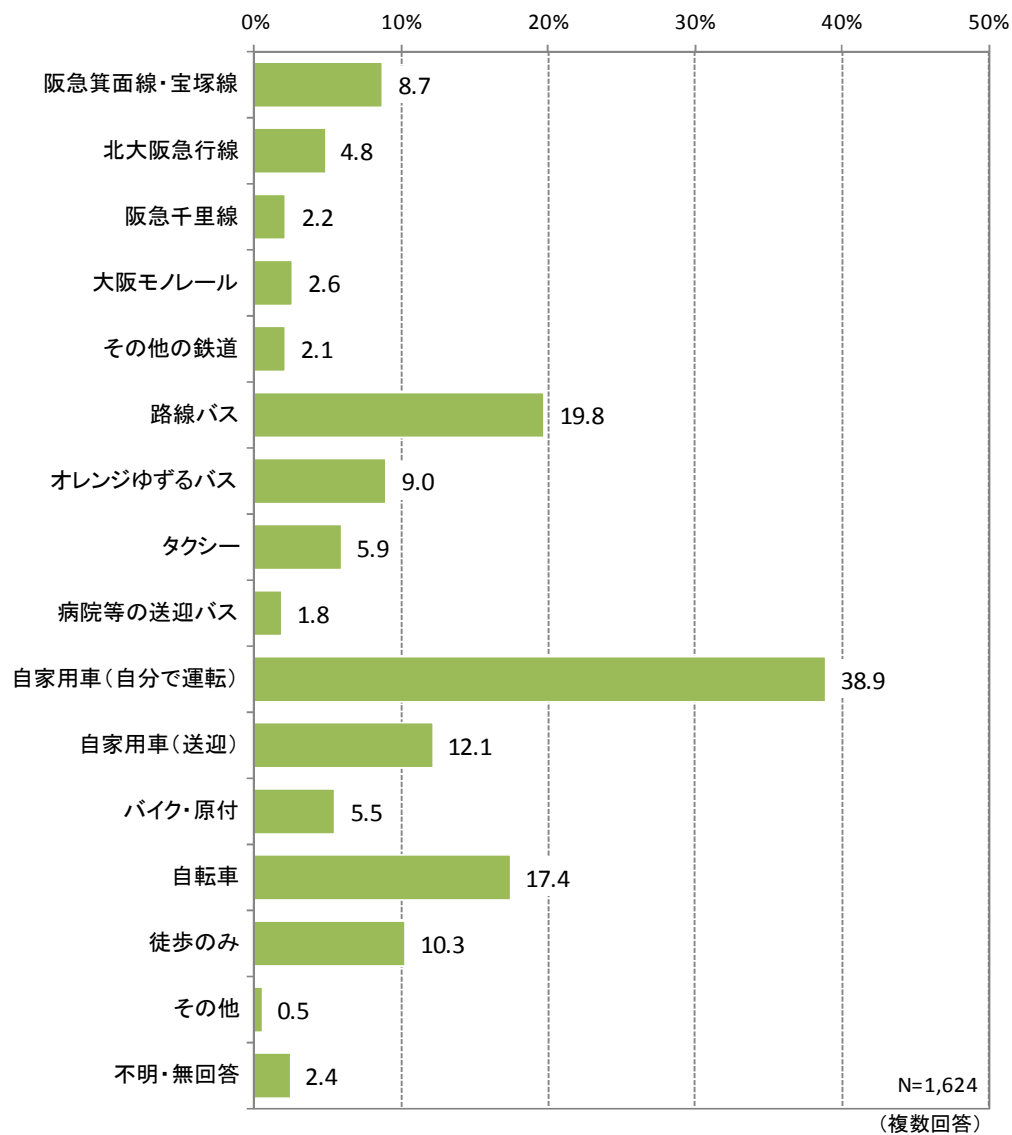


図 17 通院・その他の時に利用する交通手段

2. 北大阪急行線延伸後の移動について

(1) 延伸開業後の延伸区間の利用意向

問3① 北大阪急行線の延伸開業後、あなたは延伸区間を利用しますか。(1つに○)

①-1 「利用しない」理由は何ですか。

○延伸開業後の延伸区間の利用意向は、「利用する」が44.0%で最も多く、「バス路線があれば利用する」(22.3%)と合わせると、66.3%が『利用意向あり』となっている。

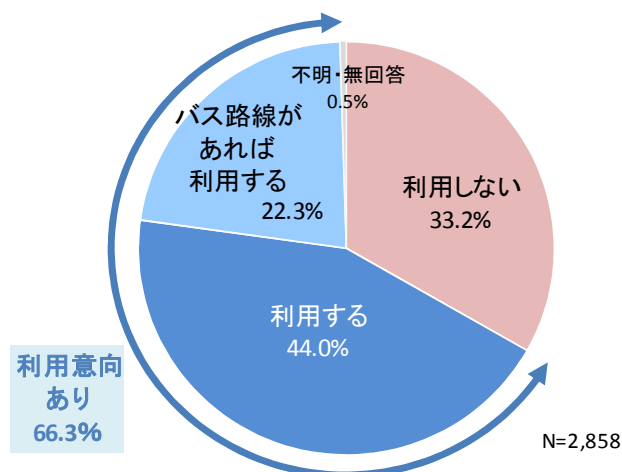


図 18 延伸開業後の延伸区間の利用意向

○延伸開業後の延伸区間を「利用しない」と回答した人の主な理由(表3)は、他路線の方が便利・満足、居住地から離れている、延伸区間を利用する理由がない、自家用車等を利用することが多い等となっている。

表 3 延伸開業後の延伸区間を利用しない理由

主な意見内容	のべ件数
他路線(モノレール・阪急等)の方が便利・満足	278
居住地から離れている	219
延伸区間を利用する理由・必要がない	199
自家用車・バイクを利用することが多い	115
新駅までのアクセスがない・不便	87
現状の路線バスの方が便利・満足	45
運賃が割高になる可能性がある	36
外出しない・出来ない(高齢、要介護等)	33
現状の区間で満足	27
乗り継ぎが必要になる・増える	9
遠方へ引っ越し予定(自宅・職場等)、完成まで生きてない	8
通勤ルートに関係ない	5
その他(現状ではわからない、本数が少ない、バス経路混雑)	5

(2) 主に利用する新駅

副問 問3①で「利用する」または「バス路線があれば利用する」と回答した人のみ
問3② 延伸開業後、北大阪急行線のどの新駅を主に利用しますか。(1つに○)

○利用すると回答した人が主に利用する新駅は、「(仮称)新箕面駅」が74.5%、「(仮称)箕面船場駅」が22.5%となっている。

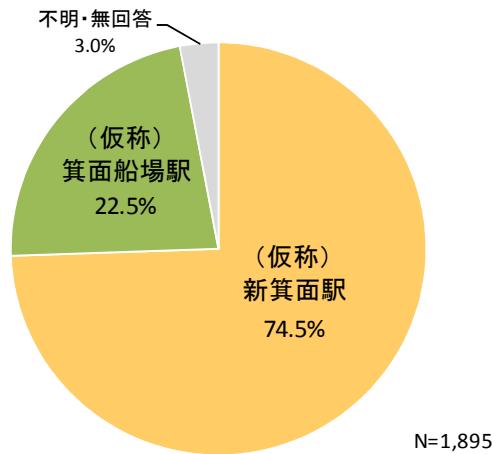


図 19 主に利用する新駅

(3) 自宅から新駅までの交通手段

副問 問3①で「利用する」または「バス路線があれば利用する」と回答した人のみ
 問3③ 自宅から新駅までの主な交通手段は何ですか。(1つに〇)

○利用すると回答した人の自宅から新駅までの交通手段は、「路線バス」が44.0%で最も多く、以下、「徒歩」が22.6%、「バイク・自転車」が17.2%と続いている。

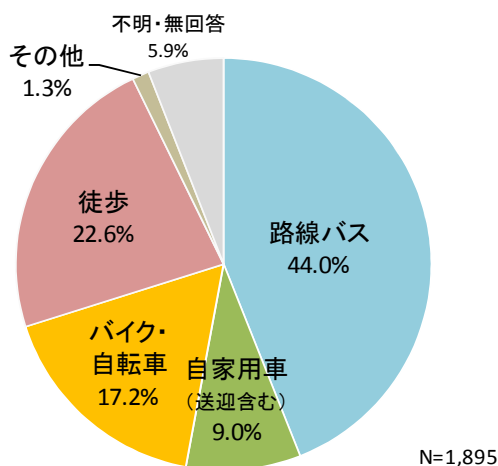


図 20 自宅から新駅までの交通手段

(4) 自宅から新駅までその交通手段を利用する理由

副問 問3①で「利用する」または「バス路線があれば利用する」と回答した人のみ
 問3④ その交通手段を利用する理由は何ですか。(1つに〇)

○利用すると回答した人が自宅から新駅までその交通手段を利用する理由は、「最も短時間で
 行けるから」が31.6%で最も多く、以下、「最も楽に行けるから」が24.3%、「他に交通手段
 がないから」が21.4%と続いている。

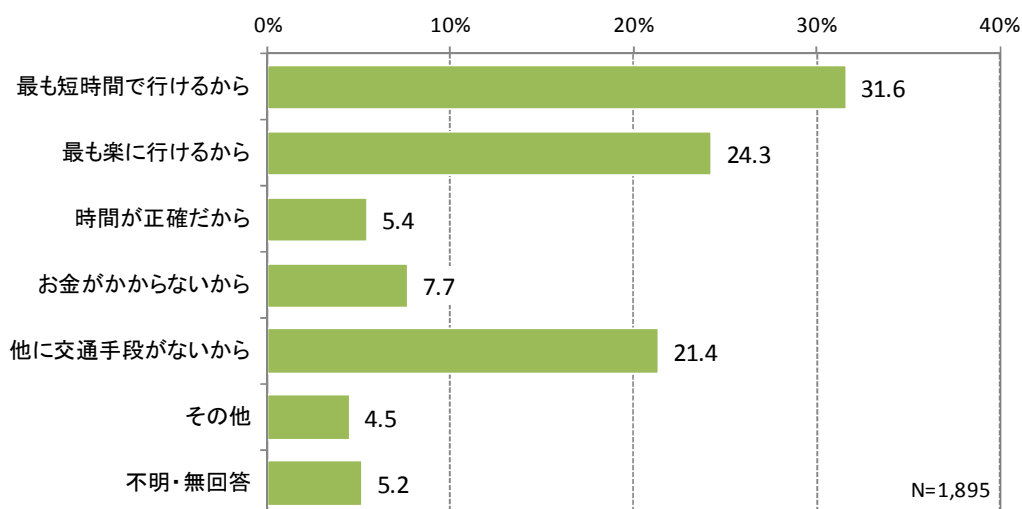


図 21 自宅から新駅までその交通手段を利用する理由

(5) 延伸区間の利用頻度

問 副問 問3①で「利用する」または「バス路線があれば利用する」と回答した人のみ
問3⑤ 延伸区間をどれくらいの頻度で利用しますか。(1つに○)

○利用すると回答した人の延伸区間の利用頻度は、「月に数回」が41.6%で最も多く、次いで、「年に数回」が29.6%となっている。

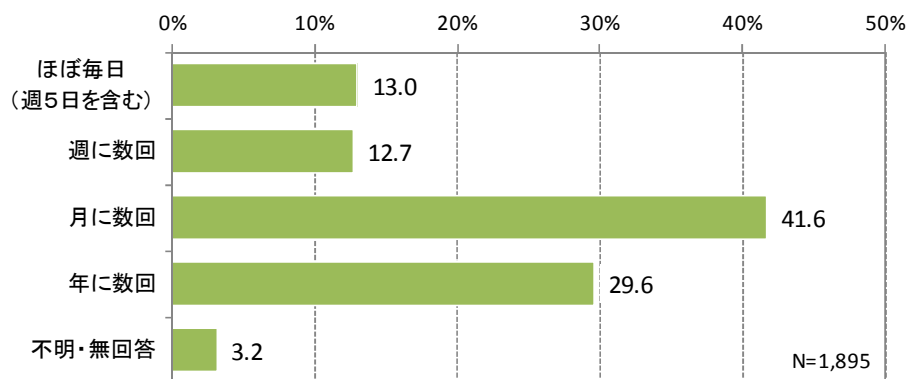


図 22 延伸区間の利用頻度

(6) 延伸区間を利用して外出する方面

問 副問 問3①で「利用する」または「バス路線があれば利用する」と回答した人のみ
問3⑥ 主にどこへ行く時に延伸区間を利用しますか。(主なもの1つに○)

○利用すると回答した人が延伸区間を利用して外出する方面は、「大阪市方面」が70.3%で最も多く、次いで「千里中央駅周辺」が19.9%となっている。

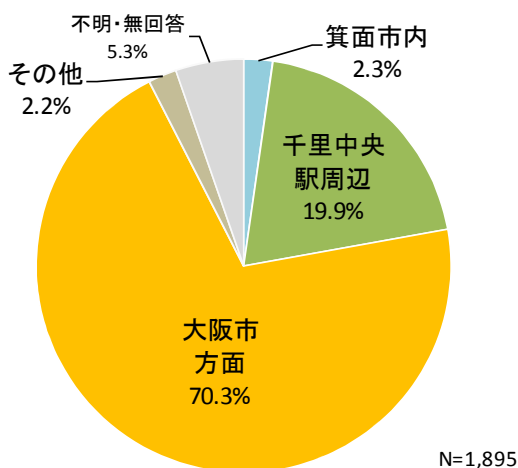


図 23 延伸区間を利用して外出する方面

3. 現在のバスの満足度について

(1) 路線バス（阪急バス）の満足度

問4 (A) 路線バス（阪急バス）：①～⑤の項目に対する満足度をお答えください。

※『満足』：「大変満足」と「やや満足」の合計
 ※『不満』：「やや不満」と「大変不満」の合計
 ※『満足度』：以下の式で算出し、最高5.00～最低1.00で表す

$$\text{満足度} = \frac{\text{「大変満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「普通」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「大変不満」} \times 1}{\text{有効回答数 (有効回収数から各設問の不明・無回答を除いた数)}}$$

- 路線バス（阪急バス）の満足度について、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合をみると、《⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）》が33.7%で最も高く、以下、《①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）》が33.4%、《②行き先》が32.2%と続いている。
- 一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）の割合をみると、《③便数》が36.5%で最も高く、次いで、《②行き先》が23.4%となっている。
- 《③便数》以外の項目については、『不満』より『満足』の割合の方が高くなっている。
- 『満足度』でみると、《⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）》、《①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）》、《②行き先》の順で高くなっている。

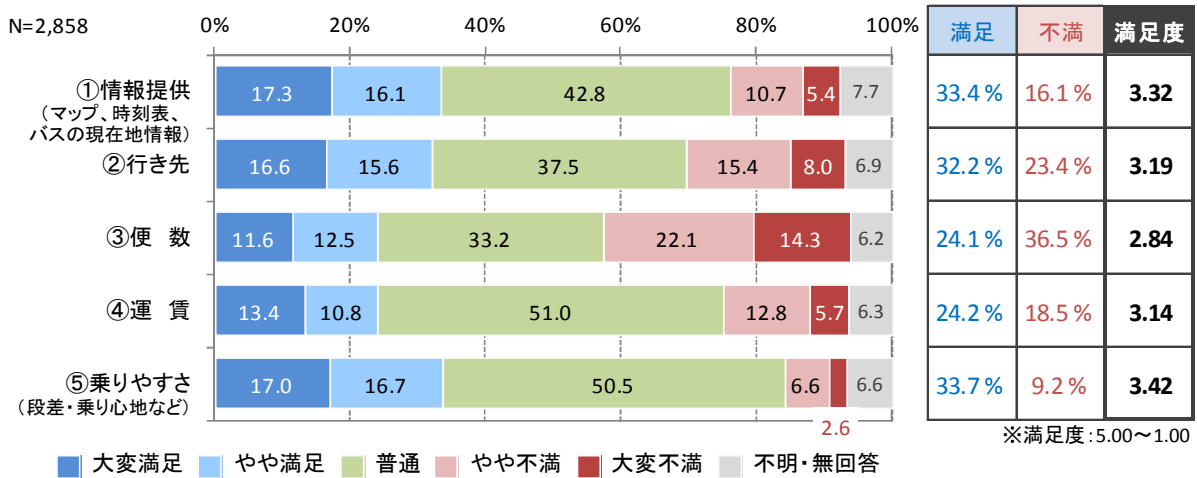


図 24 路線バス（阪急バス）の満足度

(2) 箕面コミュニティバス（オレンジゆずるバス）の満足度

問4 (B) 箕面コミュニティバス：①～⑤の項目に対する満足度をお答えください。

※『満足』：「大変満足」と「やや満足」の合計
 ※『不満』：「やや不満」と「大変不満」の合計
 ※『満足度』：以下の式で算出し、最高5.00～最低1.00で表す

$$\text{満足度} = \frac{\text{「大変満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「普通」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「大変不満」} \times 1}{\text{有効回答数 (有効回収数から各設問の不明・無回答を除いた数)}}$$

○箕面コミュニティバス（オレンジゆずるバス）の満足度について、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合をみると、《④運賃》が27.6%で最も高く、以下、《⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）》が27.4%、《①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）》が23.9%と続いている。

○一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）の割合をみると、《③便数》が49.0%で最も高く、以下、《②行き先》が37.5%、《①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）》が24.1%となっている。特に、《③便数》と《②行き先》については、『不満』の割合が『満足』の割合を大きく上回っている。

○『満足度』でみると、《⑤乗りやすさ（段差・乗り心地など）》、《④運賃》、《①情報提供（マップ、時刻表、バスの現在地情報）》の順で高くなっている。

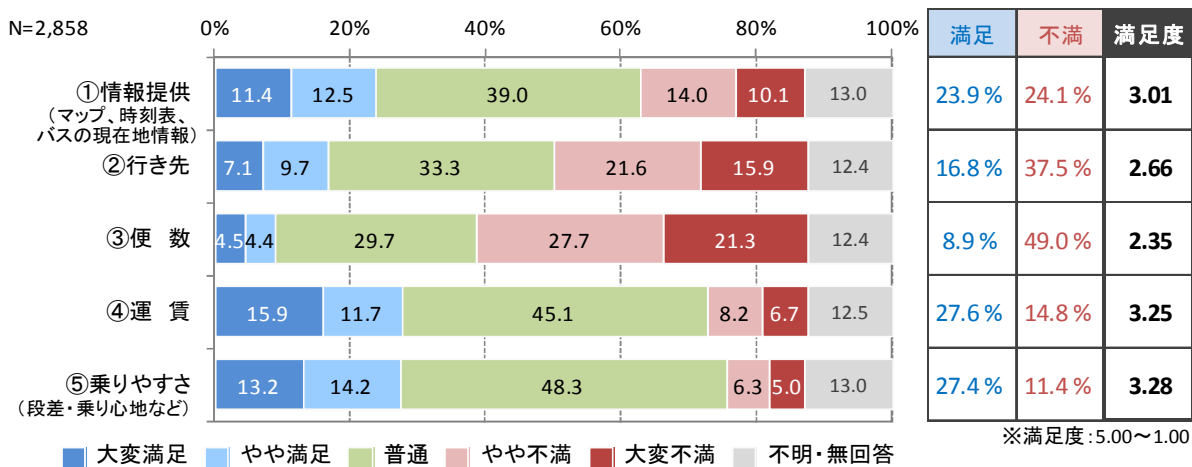


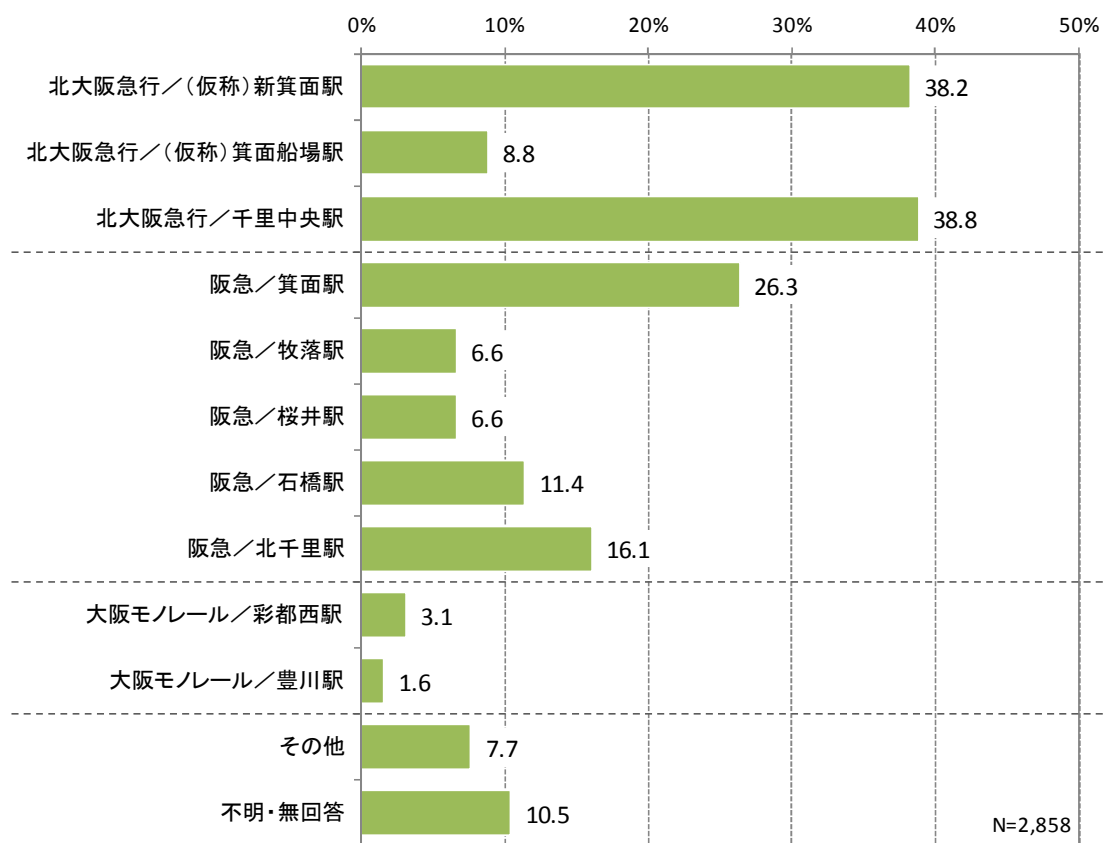
図 25 箕面コミュニティバス（オレンジゆずるバス）の満足度

4. 路線バス（阪急バス）を再編することについて

(1) 最も必要な行き先

問5 (A)① あなたにとって最も必要な行き先はどこですか。(2つに〇)

○最も必要な行き先は、「北大阪急行／千里中央駅」が38.8%で最も多く、以下、「北大阪急行／(仮称)新箕面駅」が38.2%、「阪急／箕面駅」が26.3%と続いている。



(2つ以内で複数回答)

図 26 最も必要な行き先

(2) 運賃とサービスレベルの関係

問5 (A)② 箕面市周辺の路線バスの利用者は減少傾向にあり、現在の運行ルートや便数（サービスレベル）などを将来も維持していくためにはバス事業者の採算性も必要となります。この点を踏まえ、運賃とサービスレベルの関係についてどう思われますか。（1つに○）

- 運賃とサービスレベルの関係は、「現状のサービスレベル及び運賃のままでよい」が61.8%で最も多くなっている。
- 「サービスレベルが改善されるなら、運賃はもっと高くてよい」は14.7%、「サービスレベルが低下しても、運賃はもっと安いほうがよい」は10.0%となっている。

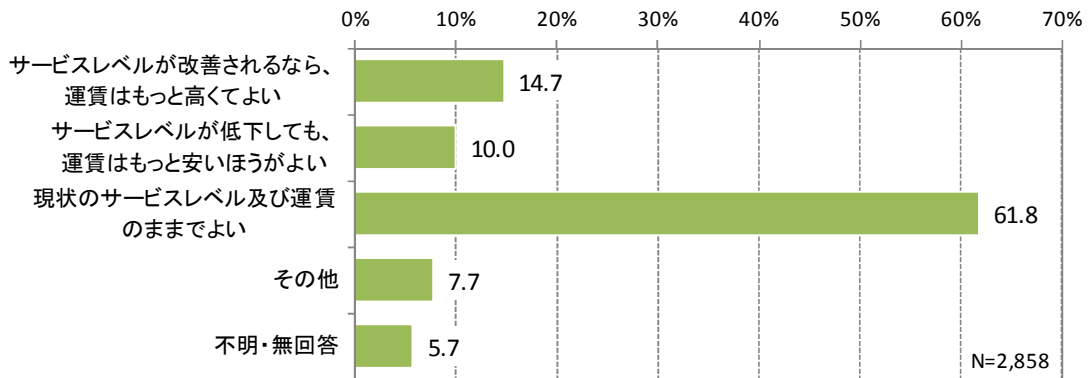


図 27 運賃とサービスレベルの関係

(3) 最低限必要なバスの本数

問5(A) 路線バスを未永く利用していくことを念頭に、あなたが最低限必要と思うバスの本数(運転間隔)を、朝(通勤通学時)、昼、夕方(帰宅時)別でお選びください。
(それぞれ1つに○)

○朝(通勤通学時)の最低限必要なバスの本数は、「10分に1本」が31.7%で最も多く、次いで、以下、「15分に1本」が27.7%、「20分に1本」が13.7%と続いている。

○昼の最低限必要なバスの本数は、「30分に1本」が30.0%で最も多く、以下、「20分に1本」が27.2%、「15分に1本」が19.5%と続いている。

○夕方(帰宅時)の最低限必要なバスの本数は、「15分に1本」が29.6%で最も多く、以下、「10分に1本」が25.8%、「20分に1本」が18.8%と続いている。

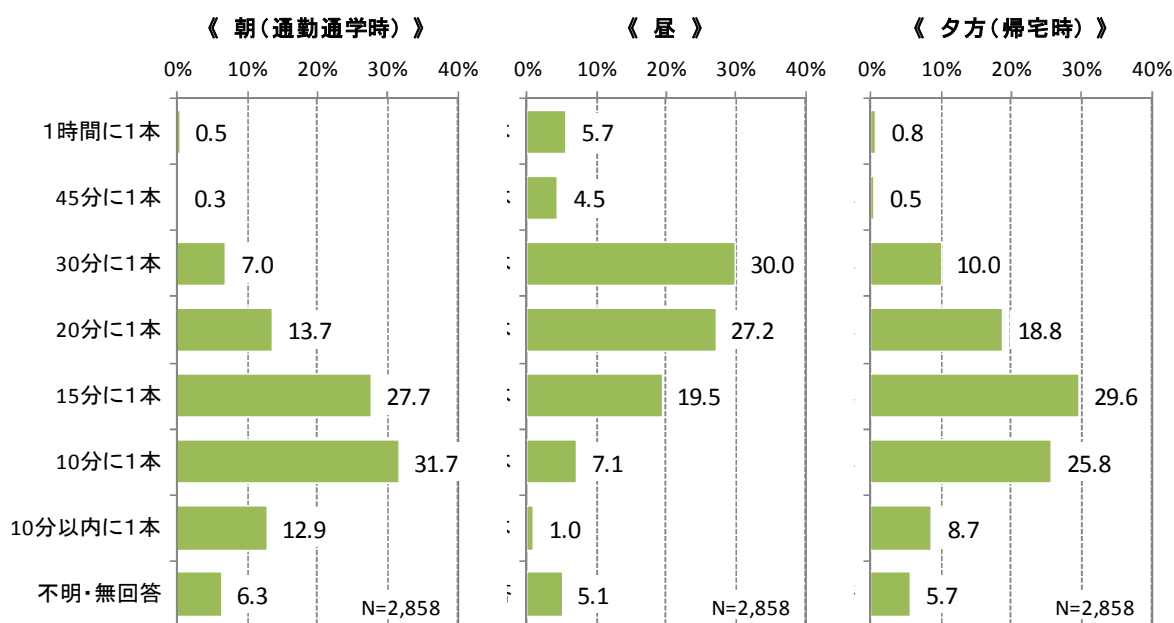


図 28 最低限必要なバスの本数

(4) 路線バスを利用しやすくするために重要な取り組み

問5(B) 路線バスを利用しやすくするための1~10の取り組みの中から、あなたが特に重要と思うものはなんですか(3つまで○)

○路線バスを利用しやすくするために最も重要な取り組みは、「バスの運行本数の増加」が33.9%で最も多く、次いで、「バス到着情報(電子看板、スマートフォンによる到着時刻案内等)の充実」が14.9%となっている。

○そのほか、2番目・3番目に重要な取り組みも含めてみると、「バス停の改善(屋根・ベンチ・風よけの設置・改良など)」、「鉄道とバス、またはバス同士を乗り継ぐ場合の運賃の割引」、「始発時間の繰り上げ、終発時間の延長」などが多くあげられている。

○また、「最も重要」を3点、「2番目に重要」を2点、「3番目に重要」を1点として、その合計を6で除した加重平均の点数でみると、「バスの運行本数の増加」が25.0点で最も高く、次いで、「鉄道とバス、またはバス同士を乗り継ぐ場合の運賃の割引」が14.8点、「バス到着情報の充実」が14.2点、「バス停の改善」が11.4点となっている。

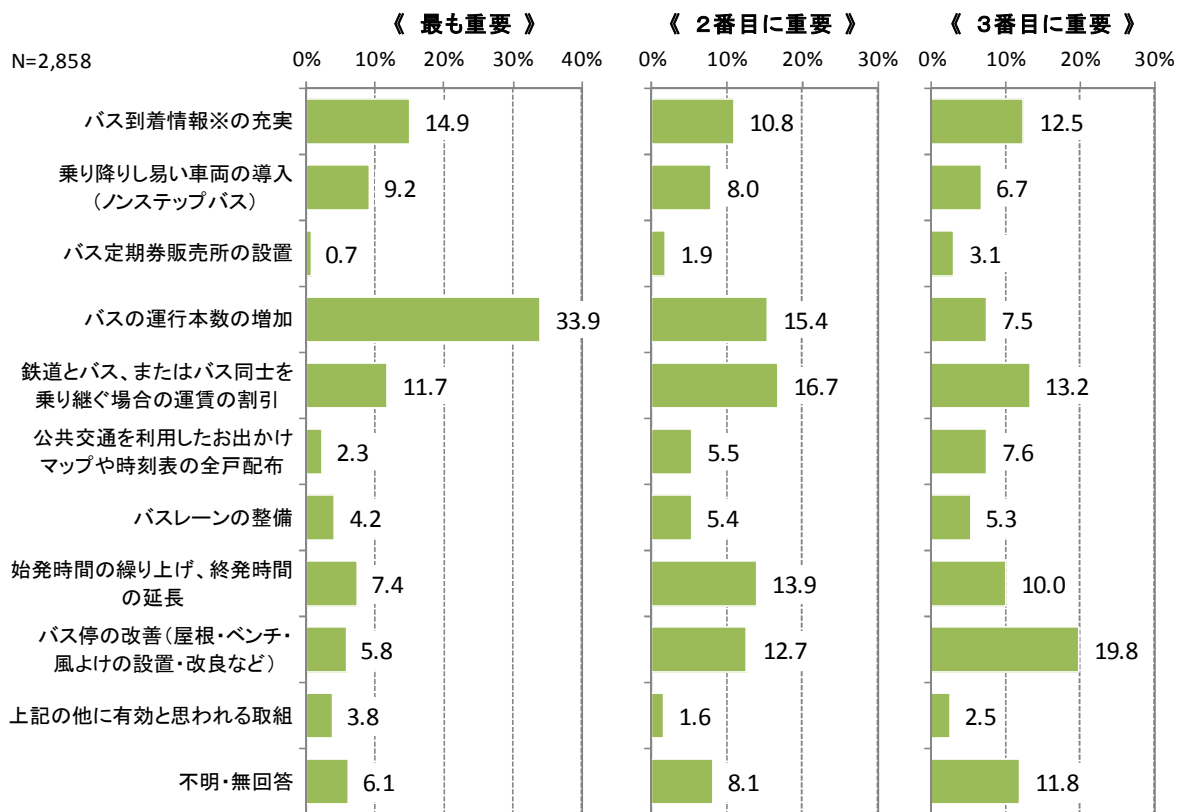


図 29 路線バスを利用しやすくするために重要な取り組み

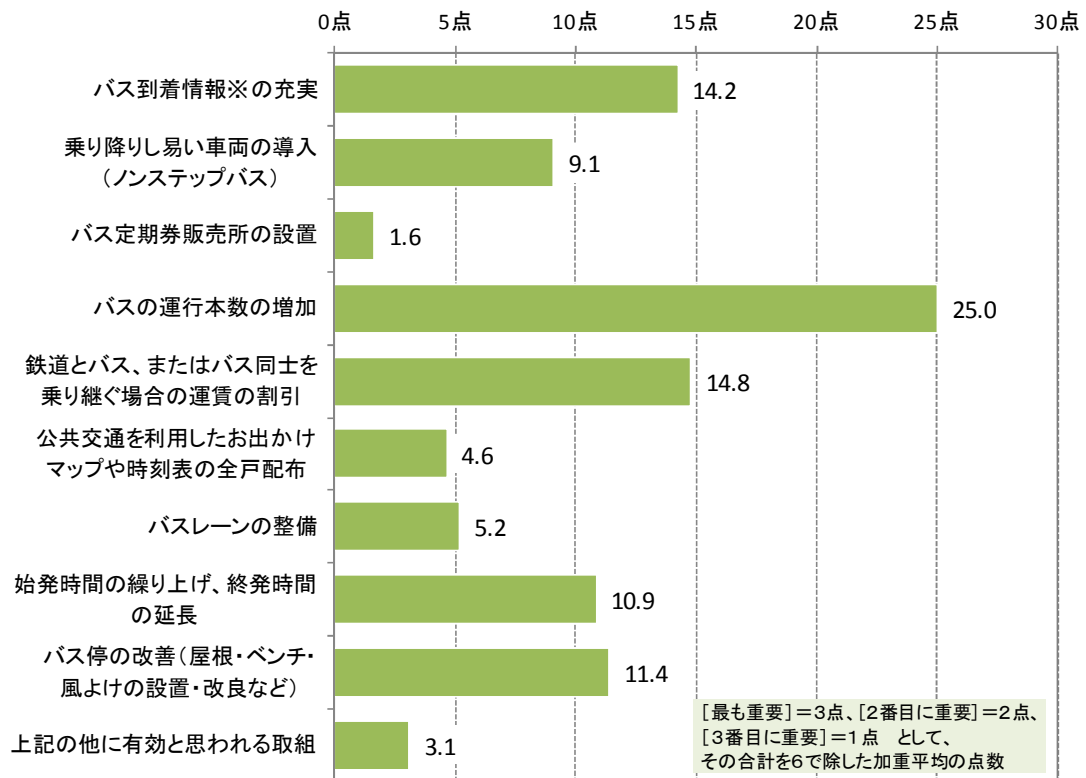


図 30 路線バスを利用しやすくするために重要な取り組み（最も～3番目：加重平均の点数）